

測定する能力			
漢字・語彙力	論理的言語力	論理的読解力	論理的思考力
漢字や語彙を使いこなす力。漢字を使って論理的な文章を組み立てる力。	日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえる力。「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。	文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。趣旨を的確に把握し、小説などを客観的に読む力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。思考し、自分の考えを論理的に書く力。
			他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

《問題Ⅰ》

漢字・語彙力

(40点)

●解答

第一問

- (1) 意向・移行
- (2) 歓喜・喚起
- (3) 好奇・高貴
- (4) 不審・腐心

第二問

- (1) 完遂
- (2) 綿密
- (3) 添削
- (4) 克服

第三問

- (1) 臨機応変・工
- (2) 我田引水・イ

第四問

- (1) 父が畑の害虫を駆除する。
- (2) 地域の伝統産業を自治体が奨励する。
- (3) 担当した事業がようやく軌道に乗った。
- (4) 風情のある寺院が多く集まっている。

■配点

第一問 各2点 (完全解答ではありません)

第二問 各2点

第三問 各4点 (四字熟語・意味 各2点)

第四問 各4点 (並べかえ・漢字 各2点)

◆解説

第一問

同音異義語の問題。文脈から意味を考え、適切な漢字に直します。

第二問

意味から二字熟語を作成します。単漢字の意味を考え、組み合わせを考えましょう。

第三問

文脈から適当な四字熟語を考えます。正しい意味と使い方を理解しましょう。

第四問

まず助詞を自立語にくっつけて、文節を作ります。

(1) 「父が」↓「駆除する」が主語と述語の関係。あとは、「畑の」↓「害虫を」↓「駆除する」とつながります。

(2) 「自治体が」↓「奨励する」が主語と述語の関係。あとは、「地域の」↓「伝

統産業を」↓「奨励する」とつながります。

す。

- (3) 「事業が」↓「乗った」が主語と述語の関係。「担当した」↓「事業が」↓「乗った」、「ようやく」↓「乗った」、「軌道に」↓「乗った」とつながります。
- 「軌道に乗る」とは、計画した通りに物が順調に進むこと。
- (4) 「寺院が」↓「集まっている」が主語と述語の関係。「風情の」↓「ある」↓「寺院が」↓「集まっている」、「多く」↓「集まっている」とつながります。

《問題Ⅱ》

論理的言語力

(40点)

●解答

第一問

- (1) オ
- (2) ア

第二問

問一 悪い年回りはいつかは回って来るのが自然の鉄則であると覚悟を定めて、良い年回りの間に充分の用意をしておくべきだということを忘れがちなこと。

問二

- (1) e・エ
- (2) a・オ
- (3) b・イ
- (4) d・ウ

■配点

第一問 各6点

第二問 問一 12点

問二 各4点 (完全解答)

◆解説

第一問

- (1) 「彼は」↓「成し遂げた」、「日本人の」↓「卓球選手として」↓「成し遂げた」、「史上初の」↓「快拳を」↓「成し遂げた」とつながります。
- (2) 「大雪による」↓「凍結で」↓「規制された」、「路面の」↓「凍結で」↓「規制された」、「高速道路の」↓「通行が」↓「規制された」とつながります。

「健忘症」とは、ここでは忘れっぽいことを意味する言葉ですが、前の文に「忘れがちなこと」とあるので、これを指していると思われます。では、何を忘れがちなのかというと、「これほど万人がきれいに忘れがちなこともまれである」の「これ」で、具体的な指示内容は、直前の「悪い年回りは用意をしておかなければならないということ」です。

問二

- (1) 天変地異の例として、空所直前で函館の大火や北陸の洪水について述べ、空所直後で近畿の風水害の例を付け加えているので、添加の「さらに」。
- (2) 人は、不幸が頻発すると、他力にすがろうとするので、順接の「すると」。
- (3) 空所直前と直後で逆のことを述べているので、逆接の「しかし」。
- (4) 空所直前で、災禍が重なるのは自然の現象であるとしていますが、空所直後では、これは自然の鉄則であると覚悟を定めるべきだと述べています。前文と比較して後文を選択する「むしろ」。

《問題Ⅲ》

論理的読解力

(40点)

●解答

第一問

- C ↓ A ↓ E ↓ B ↓ D

第二問

- (1) イ
- (2) エ
- (3) ア
- (4) ウ

第三問

- (a) ウ
- (b) イ
- (c) ア
- (d) エ

第四問

平和憲法を体现するための営みを「象徴の務め」にまかせるだけでなく、国民も考え担っていくようになるべきだ。

■配点

第一問 10点 第二問 各2点

第三問 各2点 第四問 14点

◆解説

第一問

冒頭の坂口安吾「統墮落論」の内容を受けて、C「日本人のそんな振るまいを安吾は…」につながります。次に、C(「当時」と現代とを比較するAに続き、Aの「似たような精神構造」の具体的な内容をEで述べています。Eの「天皇という権威が担えばすむことなのか」という問題提起

を受けて、Bで、大事なことを「象徴の務め」にまかせることに対する疑問を述べ、最後にDで筆者の主張をまとめています。

第二問

(1) 直後に「投票にも行かず政治家や官僚に従うことを指す」とあるので、「おまかせ民主主義」。

(2) 直前の「そんな振るまい」とは、「国民は戦争をやめたくて仕方がなかった」のに、「陛下の命令だから、忍びがたいけれども忍んで負けよう」と嘘をついていたことを指すので、「歴史的欺瞞」。直後の「自らを欺く行為に等しい」という文からもわかります。

(3) 直前のBで、私たち国民は、天皇制を介して、すごく大事なことを「象徴の務め」にまかせ、考えるのを怠ってきたとされています。つまり、「世襲に由来する権威」をありがたがり、よりどころにしたのです。

(4) 空所の後の文に、「第2次大戦の戦地への訪問」という例が述べられています。戦地への訪問は、天皇の「象徴としての務め」。

第三問

(a) 敗戦の時の話で、国民が本当はやめたくて仕方がなかったのは「戦争」。

(b) 敗戦当時、天皇は「元首」と位置づけられていましたが、現代は「象徴」です。

(c) 天皇制と異質な現代の仕組みとは「民主主義」。

(d) 冒頭にも「陛下の命令だから…忍んで負けよう」とあります。国民は、天皇、つまり「権威」の行動と価値観に身をゆだね、自分たちでは何も言えなかったのです。

第四問

「そんな姿勢」とは、直前の「世襲に由来する権威を何となくありがたがり、ときに、よりどころにする」姿勢です。筆者はこのような国民の姿勢に対し、「すごく大事なことを「象徴の務め」にまかせて、考えるのを怠ってこなかったか」と疑問を呈しています。「すごく大事なこと」とは、その前のEにある「平和憲法を体現する道」につながる営みのことです。以上をふまえ、与えられた条件で解答をまとめます。

《問題Ⅳ》

論理的思考力

(40点)

●解答

第一問

(1) アポロ11号のコンピュータの性能は

現在のスマートフォンより低いと言われている。

(現在のスマートフォンよりアポロ11号のコンピュータの性能は低いと言える。)

(2) 木の幹が太くて背が高いほど二酸化炭素の吸収量が多い。

第二問

スマートフォンの光には眼を疲れさせ体内リズムを乱すブルーライトの比率が高いので、使用の際には体への悪影響があることを理解すべきだ。

第三問

詩は、彫刻で何かを語ろうとすることで、愚劣な彫刻になってしまうということから彫刻を護ってくれるから。

■配点

第一問 各8点

第二問 12点

第三問 12点

◆解説

第一問

(1) 不要な語句は「可能だ」「比較して」です。

(2) 不要な語句は「排出の」「少量の」です。

第二問

スマートフォンのブルーライトによる体への悪影響についての文章で、最後の段落に書かれた筆者の主張とブルーライトによる体への悪影響の具体例をまとめて書きましょう。

第三問

傍線部の直前に「こういうわけで」とあるので、直前の一文が傍線部の理由になりますが、字数条件に合いません。具体的にどういうことなのか書かれた部分を探しましょう。筆者が彫刻で何かを語らずには居られないままだと、愚劣な彫刻ができあがってしまいます。そこで、筆者は短歌を書くことよって自分の彫刻が愚劣なものになってしまうことを防いだのです。その短歌の延長が「詩」です。つまり、詩が彫刻を護ってくれるので、詩を安全弁に例えているのです。

《問題Ⅴ》

論理的表现力

(40点)

●解答

第一問

(1) ア (2) イ

第二問 本を読むのが好きな高校生は全体の

六割をこえるのに、実際に本を月に一冊以上読む高校生は半数に満たないこと。

第三問

・夏休み期間のように読書の時間をとれる時期では、ふだんよりも本を読む人が多くなるから。

・地域の図書館や書店・古書店が身近で本を手にする機会が多い場所では、本を読む人が多いから。

■配点

第一問 各3点

第二問 14点

第三問 各10点

◆解説

第一問

(1) 資料2を見ると、「読んだ本が0冊」の人の割合は半数をこえているので、アの「高い」。

(2) (1)で本を読まない人の割合が高いことが示されたので、本を読む人の割合が低いのだとわかります。

第二問

資料1から、読書が「とても好き」、「わりと好き」と答えた人が合わせて六割以上いることが読み取れます。資料2を見ると、一か月間で本を一冊も読まない高校生は半数をこえることが読み取れます。つまり、資料1は「読書が好きな高校生は多い」ことを示し、資料2は「本を読む高校生は少ない」ことを示しています。だから、両者は「食いちがっている」といえるのです。読み取れることが逆接の関係にあることを意識しながら説明しましょう。

第三問

資料2と資料3を見比べると、資料3の方が「読んだ本が0冊」の人の割合が低く、本を一冊以上読む人の割合が高いので、夏休み期間の方が本を読む人が多いことが読み取れます。これをもとに、「時間がなくて本を読めない人がいる」という意見の理由を説明する文を作ります。